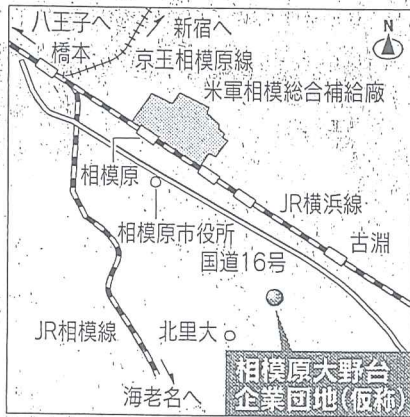


# 新工業団地に中小16社

税軽減や無利子融資 工場流出に歯止め

## 相模原 09年秋完成



神奈川県相模原市に三〇〇九年秋、新たな大規模工業団地が完成する。約六・三分の敷地に市内外の十六の中小企業が進出する。総事業費は約百五十六億円で、このうち国と県が約百十八億円を無利子で融資。市も独自の企業誘致策で資金援助する。一〇年四月に政令指定都市への移行を目指す同市は新工業団地を地域経済活性化策の柱の一つに据え、市外への企業流出に歯止めをかけた考えだ。

「相模原大野台企業団地」（仮称）に進出するのは臨床検査薬の開発・販売会社のシノテスト（東京・千代田）、自動車部品メーカーの富士自動車興業（綾瀬市）のほか、電機メーカーや、工業用ガス卸売業など中小十六社。

七社は相模原市内に本社を置く企業だが、横浜市や東京都などからも九社が進出する。各企業は市内への営業拠点新設や新分野進出のための工場などを建設する。東京に隣接する利便性を生かして営業基盤の拡大も狙う。操業から三年間で、同企業団地全体で約二百

人の新規雇用を見込む。企業団地を整備する事業主体は進出企業で構成する「協同組合Sia神奈川」。百五十六億円の総事業費のうち、中小企業基盤整備機構が約九十四億円、県が約二十四億

円を融資する。相模原市も企業誘致支援策「ステップ50」を活用、投資額の一部を助成したり、固定資産税などを減免したりして支援する。大野台はブドウ園の跡地。行政主導で企業団地を造るには財政的に難しかった。組合は九月に所有者から土地の引き渡しを受ける。同月末の着工を目指す。

市内には九つの企業団地があり、〇九年に大野台が完成すれば、一九九七年の「テクノパイル田

名」以来、十二年ぶりと名なる。一〇年度に「さがみ縦貫道路」（圏央道）が部分開通するなど、同市への進出を望む企業は少な

くない。その一方で、トヨタ自動車グループのセントラル自動車や宮城県への移転を決めるなど、企業の市外流出に歯止めをかけるため、新たな用地の確保が大きな課題となっている。